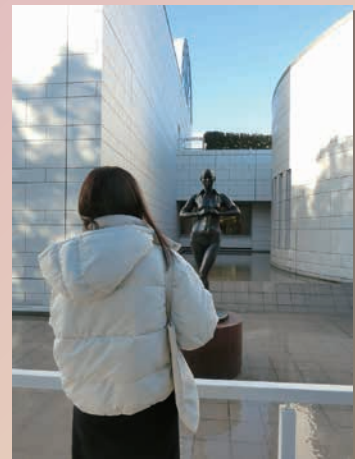


たわわ

2023

No.118

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



リトアニア共和国出身のジュギーテ・サウレさんが平塚市の国際交流員になってから、半年が経ちます。市内の屋外彫刻を訪ねながら、平塚市にもっと触れてもらいました。

平塚駅南口～なぎさ通り

駅を出て、最初に出会うのは、澤田政廣氏の「海の讃歌」です。

海に面している都市らしく、人魚の姿をしている彫刻は平塚を訪れる方を歓迎します。

「海の讃歌」は噴水の中にある作品なので、平塚市のまちの雰囲気伝わり、初めて平塚に降り立った人に与える影響が大きいと思いました。

なぎさ通りは、とても広く明るい道で、本当に海に向かっている感じがします。

しばらく歩むと「向い合う存在」にたどり着きます。

その作品からは、人と自然の関係性を明確にし、自然の存在は私たちに欠かせないものであるという思いが浮かびました。そして、人間は自然に存在しているものであり、また、人間は自然の一部であるとも感じました。

「ナミトカゼノオトコ」は、非常に印象深い作品で、じっくり見てみると、彫刻が作品名のように男性の姿をし、強く、たくましい体形していることが分かります。作品名のとおり、波と風はとても強い力を持っている自然の現象で、その現象を人の姿にすると、このような体形になるのだと思います。



海の讃歌



向い合う存在



ナミトカゼノオトコ

美術館

美術館の敷地には作品数が多く、豊かな鑑賞体験になると思います。

「コンストラクション」はとても大きい作品で、初めて来館した人には印象深いのではないのでしょうか。

敷地内には女性の姿をした彫刻が4つあり、「緑」と「座る女」は人間の姿をし、「海」と「海の顕彰碑」は海の神様なのか、海が存在になっており、再び平塚の海のテーマが表れてきます。

「コンストラクション」「赤錆の幕舎」「大黒玉」「意味の自由区」は、鑑賞者が自由に意味を考える作品に思えます。長く鑑賞し、様々な解釈を試してみるのもいいかもしれません。



海

総合公園

総合公園はエリアによって作品の雰囲気が変わってくるので、来園者にも全部周り、楽しんでいただきたいと思います。80年代後半の作品が多く、今の時代に作られているものとまた違いますので、様々なスタイルと当時の芸術を十分楽しめします。

ふるさとのみち沿いの彫刻は7つあります。それぞれの個性があり、人間の顔の表情を持っているので、鑑賞者とコミュニケーションをとりやすく、共感しやすい作品たちだと思いました。

また、彫刻の雰囲気が可愛く、秋には紅葉に囲まれ、お子さんも好きそうなエリアだと思います。

「作品 '93=C03 (ゆれるカラム)」は鮮やかな色の作品で、緑豊かな総合公園でとても目立ちます。また、青は平塚の色に思えて、揺れ動いている形も海のイメージを想像しました。

「足長・手長」は友好都市の高山市よりいただいたもので、書かれている神話の話を含めて見ると面白いです。他の作品と比べると、顔の表情と体形がとても賑やかな彫刻です。

その中でも「時起こし」は印象に残りました。海から生まれる卵に見えましたが、海から生と時間が始まったのか、時間の流れで何かしら大きい事件が起こったのか、色々な仮説について考えさせられました。

(文 ジュギーテ・サウレ)



うづくまる石



泣いてる石



作品'93=C03 (ゆれるカラム)



時起こし



足長

平塚市屋外彫刻マップを市内公共施設等で配布しています！



平塚市は市制施行90周年を記念して市内にある屋外彫刻をまとめたマップを作成しました。市内の図書館や公民館で配布しています。ホームページではもっと詳しい作品の紹介もご覧いただけます。二次元コードを読み込んでください →



今回名前だけ登場したものや、紹介できなかったものもたくさん掲載されていますので、この機会にマップを片手に市内散策をしてみたいでしょうか。

巡って学ぶ平塚学入門⑥

「平塚の貝塚」

2月のイベントですぐ思いつくものに節分がありますね。節分といえば豆まきや恵方巻ですが、イワシを食べる風習もあると聞きます。日常的にも食べられるイワシ。では、一体いつごろから食べられていたのでしょうか。

湘南平北側の旭地区のひとつである万田には、「貝殻坂遺跡」という記念碑が立っているところがあります。ここはかつて貝殻がとれていたのでもう呼ばれていたらしいのですが、山に近いこの場所で貝殻がとれるなんて不思議ですね。

大正14年（1925年）の道路拡幅工事に際してこの付近で発掘調査を行ったところ、大量の貝殻とともに縄文時代の土器が発見されました。この貝殻は縄文人が採ってきた貝だったんですね。こうした遺跡は「貝塚」と呼ばれます。そして時は



「貝殻坂遺跡」碑
市宮万田貝塚住宅の北側道路にある記念碑。この付近で大正時代から調査が行われ、画像に写る斜面部を中心に貝塚が発見された。

流れ平成17年（2005年）。再調査が行われ、この遺跡の詳細な様子を知ることができました。

貝塚は貝だけではなく、様々な生き物の骨が見つかります。シカやイノシシなどの陸生動物のほか、小さな魚の骨までも見つっています。万田の貝塚から見つかった魚の骨で一番多かったものはカツオ(約32%)、ついでボラ(約25%)。ではイワシはというと、第3位で約10%という結果でした。平塚では少なくとも縄文時代からイワシが食べられていたんですね。

平塚ではこの万田遺跡と、広川にある五領ヶ台遺跡で貝塚が発見されています。どちらも決して海から近いわけではありませんが、貝殻や魚の骨などがたくさん見つっています。このことは縄文時代に海が今以上に広がっていたことも示しているのです。



万田遺跡検出貝塚
(平塚市教育委員会提供)
平成17年の調査で検出した貝塚。この調査では、詳しい調査位置がわからなくなっていた大正期発見の貝塚を再確認できた調査でもあった。

(平塚市博物館学芸員)

「富岡奈津江展 陶のいきもの」を開催中 2022/12/3～2023/4/2

陶芸家・富岡奈津江（とみおかなつえ、1985年東京生）は、一貫して動物をモチーフとした陶による立体作品を制作しています。そのモチーフは、ゴリラやペンギンなどの身近ではない動物です。制作にあたり、生態や骨格を探求し、感情や内面、本能を実物大の作品の中に表現しています。また、富岡のつくる動物は皮膚や毛などの表面の質感と色調に特徴があります。土と水でできている陶土に炎が加わることで、物理的な強度が増すと同時に魅力的な色調が生み出されるのです。

公立美術館での初個展となる本展は、無料でご観覧いただけます。富岡奈津江の生命力あふれる「陶のいきもの」を是非お楽しみください。（開館時間、休館日等は平塚市美術館ホームページをご覧ください。）

(平塚市美術館学芸員)



平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。（2022.10.1～2023.1.31までにご寄附くださった方）（敬称略）

2022年11月15日 中栄信用金庫 / 2022年11月21日 しんわ本人自治会連合会 / 2022年12月22日 竹遊会

発行 平塚市文化・交流課 | 〒254-8686 平塚市浅間町 9-1

電話 0463-32-2235 FAX 0463-21-9756 E-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和5年(2023年)2月15日発行 右の2次元コードより文化情報誌「たわわ」へアクセスできます。

